

大会名 Competition	第66回東北高等学校男女バスケットボール選手権大会 兼第47回NHK杯大会【男子決勝】
NO. A-4	Year Month Day Time 2011年6月26日13:30
場所 Place	スポカルイン黒石



青森県高等学校体育連盟
バスケットボール専門部

チームA 東北学院 77 ●	18 1st 17 22 2nd 26 18 3rd 24 19 4th 32 OT	チームB 能代工業 99 ○
-----------------------------	--	-----------------------------

主審:Referee
藤垣庸二 (宮城)
副審:Umpire
丸谷浩基 (青森)
テーブルオフィシャル:Table officials
弘前南高校バスケットボール部

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
4	×	阿部 翔太	CAP	20	0	8	4	5	4	×	志水 一希	CAP	11	1	4	0	1
5	×	佐藤 聡太郎		2	0	1	0	5	5	×	中村 正也		20	0	7	6	4
6	×	早坂 翼		19	5	2	0	2	6	×	溝坂 太成		9	0	4	1	2
7		高杉 駿		-	-	-	-	0	7		田中 浩喜		-	-	-	-	0
8		山本 耕大		-	-	-	-	0	8	/	伊藤 健太		0	0	0	0	0
9	×	佐藤 雄人		8	0	4	0	5	9	/	中山 祐樹		48	0	21	6	1
10		山崎 大地		-	-	-	-	0	10		熊谷 慎也		-	-	-	-	0
11		早坂 涼		-	-	-	-	0	11	/	秋葉 真司		9	0	2	5	0
12		宮城 哲司		-	-	-	-	0	12	×	野里 惇貴		2	0	1	0	0
13	×	石ヶ守 遼		14	0	7	0	2	13	/	土屋 真人		0	0	0	0	1
14	/	庄司 拓矢		2	0	1	0	0	14		金田 海郷		-	-	-	-	0
15	/	福川 龍也		8	0	4	0	2	15	×	中島 強太		0	0	0	0	0
16		梅津 諒平		-	-	-	-	0	16		松本 大河		-	-	-	-	0
17	/	菊地 啓斗		0	0	0	0	0	17		砥綿 啓伍		-	-	-	-	0
18	/	平野 大輔		4	0	2	0	0	18		小田桐 匡志		-	-	-	-	0
コーチ		帆 足 直 治							コーチ		佐藤 信 長						
Aコーチ		加藤 寿							Aコーチ		平山 智 哉						
合 計				77	5	29	4	21	合 計				99	1	39	18	9

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P* イントシュート 2P:2P* イントシュート FT:フリースロー F:ファウル

第1Q両チームともマンツーマンでスタートし、学院が9番のアリウープで先制する。対する能代は4番のジャンプシュートで対抗。能代は厳しいプレッシャーからリバウンドを奪取し、ブレイクへとつなぐバスケットを展開。学院は4番が起点となり、チャンスを活かす。残り9秒で学院6番が3Pを決め、18-15とするがそこから早い展開で能代9番がランニングプレイを決めて、第1Qを18-17の学院リードで終了。
第2ピリオド能代はゾーンへと変化し、リバウンドからの9番、6番の速攻が決まり逆転。学院は13番の連続得点により、試合はここから一進一退の攻防となる。学院15番がルーズボールを頑張り加点、更に6番のミドルシュートが決まり、学院リードでこのゲーム最多の6点差と開く。能代は9番の1on1からの連続得点で、残り50秒で38-38の同点とする。そこから、能代が速攻から5番のファストブレイクで加点し、41-40でこのゲーム能代が初のリードを奪い、43-40で第2Qを終了。
第3Q能代がスリークォーターからのゾーンプレスからハーフマンツーマンに移行し、学院のオフenseリズムを崩す。ブロックショットから、9番のファストブレイクが決まり7点差として学院がタイムアウトを取る。タイムアウト後学院は、オールコートゾーンに変化させ、能代のミスを生かして、4番と15番のゴール下で得点し差を縮める。切り替えの早い能代は得点を決められても早い展開とし、9番の3連続得点と4番のスリーポイントで加点。対する学院も6番のスリーポイントで点差を広げない。能代がタイムアウト後のオフenseで11番がリバウンドシュートを決め、最大の9点リードと広げ58-67で最終クォーターに突入。
第4Q疲れが見え始めた学院に対し、能代は4番からの鮮やかなアシストパスを6番、9番、11番が確実にネットに沈め、76-63で学院がタイムアウト。学院は13番と4番のシュートで応戦するも、能代は手をゆるめず9番の得点で着実に得点し、最後は99-77で終了。今大会2年ぶりの東北大会優勝を果たした能代工業の走るバスケットが印象に残る試合であった。

大会名 Competition	第66回東北高等学校男女バスケットボール選手権大会 兼第47回NHK杯大会【男子準決勝】
No. B-2	Year Month Day Time 2011年6月26日10:30
場所 Place	スポカライン黒石



青森県高等学校体育連盟
バスケットボール専門部

チームA		チームB															
弘前実業	<table border="0"> <tr><td>17</td><td>1st</td><td>26</td></tr> <tr><td>23</td><td>2nd</td><td>29</td></tr> <tr><td>22</td><td>3rd</td><td>32</td></tr> <tr><td>17</td><td>4th</td><td>29</td></tr> <tr><td>OT</td><td></td><td></td></tr> </table>	17	1st	26	23	2nd	29	22	3rd	32	17	4th	29	OT			能代工業
17	1st	26															
23	2nd	29															
22	3rd	32															
17	4th	29															
OT																	
79 ●		116 ○															

主審:Referee
芳賀 聡 (福島)
副審:Umpire
鈴木 勝 則 (山形)
テーブルオフィシャル:Table officials
弘前南高バスケットボール部

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
4	×	葛西 崇 臣	葛西 崇 臣	9	1	3	0	5	4	×	志水 一 希	CAP	10	0	5	0	0
5	×	山崎 涉 真	山崎 涉 真	29	2	7	9	3	5	×	中村 正 也		21	0	10	1	4
6	/	福沢 大 輝	福沢 大 輝	0	0	0	0	1	6	×	溝坂 太 成		8	0	4	0	2
7	×	工藤 駿 CAP	工藤 駿	10	2	2	0	1	7		田中 浩 喜		-	-	-	-	0
8	×	渋谷 貴 大	渋谷 貴 大	0	0	0	0	0	8	/	伊藤 健 太		9	3	0	0	2
9	/	工藤 秀 斗	工藤 秀 斗	0	0	0	0	1	9	/	中山 祐 樹		26	0	12	2	2
10	/	最上 耕 吉	最上 耕 吉	2	0	1	0	0	10	/	熊谷 慎 也		0	0	0	0	0
11	/	大下 友太郎	大下 友太郎	2	0	1	0	2	11	/	秋葉 真 司		12	0	5	2	1
12	×	佐藤 壱 成	佐藤 壱 成	15	5	0	0	0	12	×	野里 惇 貴		2	0	1	0	0
13		佐藤 浩 陽	佐藤 浩 陽	-	-	-	-	0	13	/	土屋 真 人		11	1	4	0	2
14	/	齊藤 悠 介	齊藤 悠 介	0	0	0	0	0	14	/	金田 海 郷		3	0	1	1	0
15		一戸 数 麻	一戸 数 麻	-	-	-	-	0	15	×	中島 強 太		8	0	4	0	2
16		高谷 光 輝	高谷 光 輝	-	-	-	-	0	16	/	松本 大 河		0	0	0	0	1
17	×	千葉 洸 太	千葉 洸 太	12	0	5	2	0	17	/	砥綿 啓 伍		0	0	0	0	0
18		青山 大 地	青山 大 地	-	-	-	-	0	18	/	小田桐 匡 志		6	1	1	1	2
コーチ		小野 公太郎	小野 公太郎						コーチ		佐藤 信 長	佐藤 信 長					
									Aコーチ		平山 智 哉	平山 智 哉					
合 計				79	10	19	11	13	合 計				116	5	47	7	18

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P* イントシュート 2P:2P* イントシュート FT:フリースロー F:ファウル

両チームともに、激しいマンツーマンDFで始まるなか、弘前実業⑤山崎のドライブからのレイアップシュートが決まる。しかし、すぐに能代工業⑩中島のジャンプシュートでお返りする。その後、両チームともにドライブからレイアップシュートを試みるが決まらない。能代工業の激しいマンツーマンDFから、能代工業④志水のレイアップシュートが決まり12-4とひろがる。弘前実業がたまたまタイムアウトを取る。タイムアウト後、弘前実業⑩千葉の連続ジャンプシュートやオフェンスリバウンドで流れをつかみ、14-10まで弘前実業は追い上げる。しかし、能代工業⑨中山の連続得点で24-17となり、残り30秒で、能代工業はオールコートマンツーマンでプレッシャーをかけ、26-17能代工業リードで第1Qを終了する。

第2Qは能代工業の激しいマンツーマンDFに対し弘前実業⑦工藤のジャンプシュートや⑤山崎のバスケットボールカウントで奮起するも能代工業⑨中山の個人技で39-22とひろげられ、第2Q開始3分、弘前実業がタイムアウトをとる。タイムアウト後、両チーム、2-3のゾーンDFにディフェンスを変えた。弘前実業は能代工業のゾーンDFをアウトサイドから攻め、弘前実業⑫佐藤の3Pシュートや⑤山崎のジャンプシュートで、39-30まで追い上げる。残り1分30秒で、能代工業がオールコートのゾーンプレスをしかけ、55-40と引き離し、前半を終了する。

第3Qは能代工業2-3のゾーンDF、弘前実業はマンツーマンでスタートする。弘前実業④葛西を能代工業④志水にフェイスガードでタイトにディフェンスをさせ、流れをつかもうと試みたが、能代工業のオールコートのゾーンプレスにより、一気にリードをひろげられタイムアウトを請求する。それでも能代工業の流れは変わらない。87-62で第3Qを終了。

最終第4Qも能代工業のオールコートゾーンプレスからの2-3のゾーンDFは弘前実業を苦しめ、116-79で能代工業が決勝に駒を進めた。

大会名 Competition	第66回東北高等学校男女バスケットボール選手権大会 兼第47回NHK杯大会【男子準決勝】
No. A-2	Year Month Day Time 2011年6月26日10:30
場所 Place	スポカライン黒石



青森県高等学校体育連盟
バスケットボール専門部

チームA		チームB
東北学院	(18 1st 24)	聖和学園
78	(22 2nd 14)	72
○	(16 3rd 14)	●
	(22 4th 20)	
	OT	

主審:Referee
小野寺 浩 (秋田)
副審:Umpire
植田 浩司 (福島)
テーブルオフィシャル:Table officials
弘前高校バスケットボール部

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
4	×	阿部 翔太	CAP	27	0	12	3	3	4	/	佐藤 恭平	CAP	6	2	0	0	2
5	×	佐藤 聡太郎		6	1	1	1	2	5	/	片岡 陵		0	0	0	0	1
6	×	早坂 翼		11	1	2	4	1	6		岩見 拓也		-	-	-	-	0
7		高杉 駿		-	-	-	-	0	7	×	川嶋 賢治		9	1	2	2	2
8		山本 耕大		-	-	-	-	0	8	×	蜂谷 晃弘		20	0	9	2	4
9	×	佐藤 雄人		4	0	2	0	4	9	×	菊地 啓志		28	6	3	4	1
10		山崎 大地		-	-	-	-	0	10	×	牧野 良太		8	0	3	2	5
11		早坂 涼		-	-	-	-	0	11		高橋 和希		-	-	-	-	0
12		宮城 哲司		-	-	-	-	0	12	×	櫻井 亮実		1	0	0	1	3
13	×	石ヶ守 遼		28	0	12	4	0	13		成田 涼平		-	-	-	-	0
14		庄司 拓矢		-	-	-	-	0	14		樽沢 壱成		-	-	-	-	0
15	/	福川 龍也		2	0	1	0	2	15		松本 紳		-	-	-	-	0
16		梅津 諒平		-	-	-	-	0	16		小室 晋太郎		-	-	-	-	0
17	/	菊地 啓斗		0	0	0	0	2	17		水間 昂平		-	-	-	-	0
18	/	平野 大輔		0	0	0	0	0	18		氏家 拓真		-	-	-	-	0
コーチ		帆 足 直 治							コーチ		渡 邊 斌						
Aコーチ		加 藤 寿							Aコーチ		櫻 井 真之介						
合 計				78	2	30	12	14	合 計				72	9	17	11	18

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P* イントシュート 2P:2P* イントシュート FT:フリースロー F:ファウル

宮城県勢同士の対決となった、男子準決勝。

第一ピリオド、両者ハーフコートマンツーマンで開始。序盤聖和⑨菊地のミドルシュート、スリーポイントシュートでリードを奪う。東北学院は、④阿部のミドルシュート、ドライブからの合わせで対抗する。東北学院18-24聖和学園

第二ピリオド、東北学院⑥早坂のスリーポイント、④阿部のリバウンドシュート、続けてリバウンドからのバスケットカウントで逆転。残り7分で聖和学園がタイムアウト。タイムアウト明け、聖和学園⑨菊地のスリーポイントで逆転すると、その後一進一退の攻防が続く。前半終了東北学院40-38聖和学園

第三ピリオド、聖和学園⑨菊地の連続スリーポイントシュートで再度逆点すると、プレッシャーディフェンスからのファストブレイクで加点。残り6分東北学院がタイムアウト。タイムアウト明け、東北学院が3-2ゾーンに変えると聖和学園は攻め倦みシュートが入らなくなる。残り2分で東北学院が同点に追いつく。その後、東北学院⑤佐藤聡のスリーポイントなどでリードを奪う。東北学院56-52聖和学園で終了。

第四ピリオド、東北学院は3-2ゾーンのままでスタート。聖和学園はハイポストエリアの攻撃を中心に攻めるが、得点差が縮まらない。東北学院⑬石ヶ守のファストブレイクからのレイアップシュートがバスケットカウント。5点差となり、残り6分半、聖和学園タイムアウト。タイムアウト明けも東北学院の勢いは止まらず、スティールからのレイアップシュート、インサイドでファウルを貰いフリースローなどで、点差を10点に拡げる。残り4分、聖和学園タイムアウト。タイムアウト明け、聖和学園⑧蜂谷の連続得点で点差を縮めるが東北学院⑨佐藤雄と④阿部のハイロープレイのバスケットカウントで再び10点差となる。残り1分半、聖和学園はオールコートマンツーマンで仕掛けるが、追いつけず、78-72でゲーム終了。